

オオムラサキ

チョウ目タテハチョウ科

Sasakia charonda charonda (Hewitson)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

全国に分布するが、石川県の個体数は少ない。

形態

開張100mm前後の大型種。オスの翅表は黒褐色で白色と黄色の斑紋があり、翅の前半程が紫色に輝く。メスはオスより一回り大きく、紫色の輝きが無い。

国内分布

北海道から九州まで分布し、本州では山麓から山地帯にいたる落葉広葉樹林に広く生息している。

県内分布

加賀地方の山麓や丘陵地に広く生息しているが、能登地方では稀となる。邑知潟より北では、輪島市と珠洲市の生息地が知られているが、1990年の観察以降は発見されていない。

生態

年1回の発生で、6月下旬～8月下旬に見られる。人家や耕作地に近いクヌギ、コナラ、エノキなどから構成される雑木林に生息することが多く、雌雄ともに好んで樹液に集まり、クワガタやカナブンなどと一緒に吸っている。幼虫は、エノキ、エゾエノキを食し、越冬は食樹を下り根際の枯葉の中で行われ、翌春になると再び食樹に上る。

生息地の条件

クヌギ、コナラ、エノキなどから構成される広い雑木林が必要で、山間地では、人家の庭や社寺の境内、公園などでも発生している。

生存の危機

里山の落葉広葉樹林は、土地開発が最も行われやすい場所である。近年は、柴刈りや伐採更新などの人手が入らなくなり放置され、生息環境は悪化している。(A, B)

特記事項

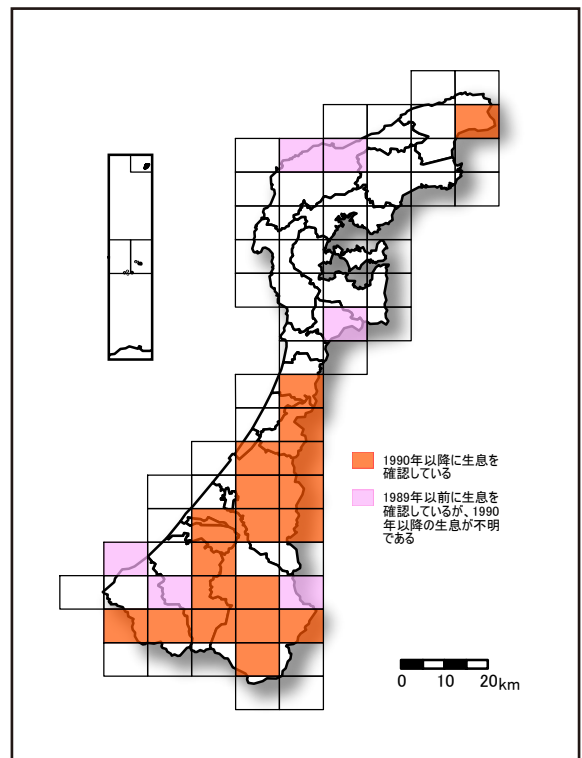
全国に広く分布し、大型で力強く飛翔し色鮮やかなことから国蝶に選ばれている。

参考文献

福田晴夫ほか 1983. オオムラサキ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅱ): 269-276. 保育社. 大阪.
松井正人 2007. 石川県能登地方に於けるオオムラサキの近況. 翔, (185): 8.



写真提供者: 竹谷宏二



県内の分布